

# 会議等速報

令和8年6月24日

件名	第1回 鹿児島市学校規模適正化・適正配置基本計画検討委員会	作成課	教育委員会 管理部 学校整備推進課
日時	令和8年6月19日(金) 14時30分～16時15分		
場所	教育総合センター2階 教育委員会室		
出席者	鹿児島市学校規模適正化・適正配置基本計画検討委員会委員 8名(欠席2名)		
市出席者	教育委員会事務局学校整備推進担当部長、学校整備推進課長 ほか		
会次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 委員委嘱</li> <li>3 学校整備推進担当部長あいさつ</li> <li>4 委員紹介、委員長及び副委員長選出</li> <li>5 本市における学校規模適正化・適正配置の基本方針及びこれまでの経過について</li> <li>6 本市の現状について</li> <li>7 非公開協議内容</li> <li>8 閉会</li> </ol>		
主な意見等	<p>●本市における学校規模適正化・適正配置の基本方針及びこれまでの経過について平成30年3月策定の基本方針と適正化等の要望に至った地域のこれまでの経過等について説明</p> <p>[質疑内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市は今後どのような方法で適正化を進めていくのか。             <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 児童生徒数の減少等ここ数年で大きく課題が顕在化していることや、長崎市や北九州市など中核市や政令市でも計画的に適正化を進めている自治体が出ている状況もあり、今後市として適正化を進めていく計画を策定すべきか委員の皆様からご意見をいただきたい。</li> </ul> </li> <li>・ 保護者はこどものために統合したいという意見が多いが、地域の方が、学校は地域の核であるため残したい、ということで統合の要望に至っていないといった事例はあるのか。             <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 現状保護者の方が要望されたのは、桜島地域、明和校区、喜入地域の前之浜、生見小の3地域であり、他の地域で事例はない。他の地域の保護者や地域の方に説明を行った際は、保護者は統合に理解を示す一方、地域の方は学校を残したいといった意見は出ている。</li> </ul> </li> <li>・ 大規模な学校や集団の中ではなかなか学校に行きづらい子供もいる。そういった子供達が小規模校を選べるように検討していただきたい。             <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 特認校制度を利用して通学している児童生徒もいるので、その点も配慮しながら進めていきたい。</li> </ul> </li> </ul> <p>●本市の現状について 令和8年5月1日時点市内小・中学校の児童生徒数・学級数の現状について説明</p> <p>[質疑内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大規模校や過大規模校の場所の配置はどのような特徴があるのか。</li> </ul>		

⇒ 中山小学校や吉野東小学校、福平小学校、吉野小学校といったように、谷山地域と吉野地域に分布しており、地域ごとに偏りがある。

- ・ 平成30年以降に、校区変更が実施された事例はあるのか。

⇒ 中山小学校について、基本方針策定当初から過大規模校に位置付けられており、市教委内では校区変更等が実施できないか検討していたが、小学校区を地域コミュニティ校区の範囲と考えている住民の方も多くおり、校区変更には至らなかった。

中山校区については、校区変更はしなかったが、当該校区を調整区域に指定し、近隣校への通学を希望する場合には校区外許可する制度を設けた。また、保護者の方が送迎する形で隣接の校区に通学する場合は、送迎のガソリン代を補助する制度を設けた。当該制度について、正確な数字は現状把握していないが、昨年度は40名が新たに校区外許可されているが、過大規模校を解消する程の効果は得られていないというのが現状である。

- ・ 関係部局との連携は非常に重要であるとする。例えば、部活動の地域移行も徐々に進めていく段階であり、あるいは校舎や給食施設の老朽化に伴う再編を今後どのように進めていくのか議論が求められてくるものとする。このような点も見通していく上で、意見として申し上げる。